

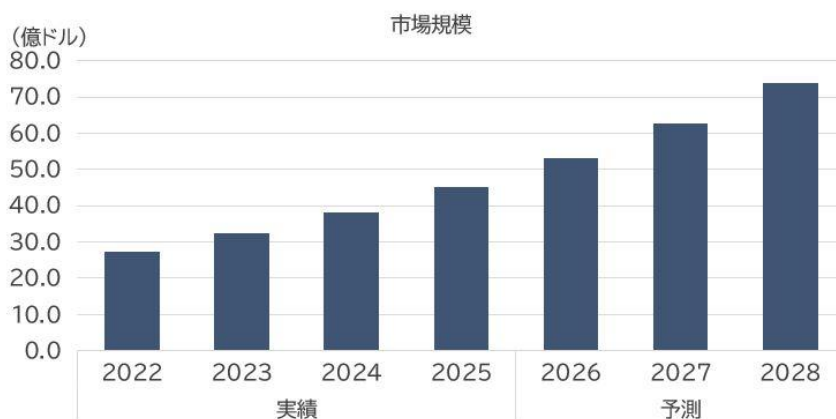
2026年10月7日
株式会社SVPジャパン

SVP注目市場分析 「二酸化炭素回収・貯留（CCS）」を公開 ～個別設備から共同インフラへ、商業化に向けた市場形成が進展～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「二酸化炭素回収・貯留（CCS）-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■二酸化炭素回収・貯留（CCS）の世界市場



CCS（二酸化炭素回収・貯留）は、発電所や工場などから排出されるCO₂を分離・回収し、輸送したうえで地下深部に長期的に貯留する技術・事業で、特に、製造工程でCO₂が発生し、電化や再生可能エネルギーへの転換だけでは排出削減が難しいセメントや鉄鋼、化学、水素製造などの産業において、有力な脱炭素手段として注目を集める。2025年の世界市場は45.1億ドルと推定され、各国の政策支援を背景に、実証・研究開発を中心とする段階から商業化に向けた動きが広がりつつある。排出事業者が個別に設備を整備する形から、複数事業者が輸送・貯留設備を共同利用するハブ・クラスター型へと事業モデルも変化しており、コスト面の改善や輸送・貯留を含む事業環境のさらなる整備などが、商業化と市場形成の進展に向けた課題といえる。

■ 二酸化炭素回収・貯留（CCS）の市場概況

CCS市場には、エネルギー大手、産業ガス企業、回収技術・エンジニアリング企業など多様なプレイヤーが参入している。回収領域では技術・コストやEPC遂行力が競争軸となる一方、輸送・貯留領域はインフラ投資や貯留適地、許認可が必要で参入障壁が高い。商業化に向けた市場形成が進む中、競争の焦点は回収技術単体から、CCSのバリューチェーン全体を構築・運営する事業組成力へと広がりつつある。日本でも商業化に向けた制度・事業形成が進み、2025年には苫小牧沖がCCS事業法に基づく国内初の特定区域に指定された。国内貯留に加え、船舶でCO2を海外へ輸送・貯留する国際CCSの検討も進められており、2030年度までの事業開始に向けて、国内外で事業の具体化が進んでいる。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造
- VII. 課題
- VIII. 日本市場の動向



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。
購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求



お問い合わせ



■ 次回のテーマ

11月のテーマは「空飛ぶクルマ（eVTOL）」と「ワイヤレス給電EV／超急速充電システム」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com